



挙式は両家をつなぐ日本古来の家婚式スタイルで

Welcome to My home

ようこそ
我が家へ

CASE 2 小松家

音の葉「おふたりが音の葉を選ばれたきっかけを教えてください」

新婦「結婚式は和装で行いたいと思っていましたので、和が似合う会場を探していました。あと、結婚式当日がお互いの家族や親族の初対面の場だったので、みんながリラックスして過ごせるような会場が良くて音の葉を選びました。」

新郎「茅葺の門をくぐった瞬間にイメージにぴったりだ！と感じました。古民家の持つ温かみは自分の家のように、それが決め手になりました。」

音の葉「ゲスト様をお迎えする日はおふたりが書かれたメッセージをお読みください」



音の葉「母とは話しましたが、父とは単身赴任で一緒に過ごすことができませんでしたか？」

新婦「母とは話しましたが、父とは単身赴任で一緒に過ごすことが

「初めまして」の
家族・親族をつなぐ
囲炉裏を使った温かいおもてなし



ご両親にお手伝いいただく花嫁支度
久しぶりに親子3人で過ごす静かな時間

難しい時期が長かったからか、実は少し距離を感じていました。当日、挙式の前に両親との三人の時間を作ってもらったんですが、お互いに向かい合って座った瞬間、自然と涙が溢れて、気づくと三人でポロポロと泣いていたんです。父も私と同じ気持ちだったのかと思うとこの日を迎えられる本当に良かったなと感じました。」

音の葉「挙式からとてもアットホームな雰囲気でしたね」

新婦「そうですね。挙式は和装を着るから神前式かな？くらいに思っていたんですが、プランナーさんから日本古来の結婚式のスタイル『家婚式』を提案されたんです。「人と人」「家と家」「絆」という、日本における結婚式の文化や伝統を大切にしたいスタイルに共感して家婚式に決めました。」

新郎「実は祖母も家で結婚式を挙げていたんです。昔から日本人が挙げてきた結婚式の形で、自分たちの式が出来て本当に良かったんです！」
音の葉「披露宴では囲炉裏を使っておもてなしがおふたりらしくかったですね」

新郎「元々、高砂の僕たちの元にもんがが集まってくるのではなく、それぞれが思い思いの過ごし方でくつろいで欲しかったんです。なので、趣味の釣りに関連づけて囲

新郎様自らお魚を焼き
ゲスト様をおもてなし！



鮎の焼け具合を確認しながら火の番をする新郎様

炉裏で鮎の塩焼きを振る舞い、その囲炉裏を囲むようにテーブルをレイアウトして、みんなが自由に歩けるスタイルにしました。」

新婦「私たちの元にいろんな方が気軽に来てくれたり、甥っ子達は囲炉裏で自由にマシュマロを焼いたり、初めましてとは思えないリラックスした雰囲気がとても心地良かったです。」

音の葉「ありがとうございます。最後になりますが、おふたりにとって音の葉とはどんな場所でしょうか？」

新郎「披露宴後、親族を見送っていた際にふと、結婚式を挙げて本当に良かった。この日がなければ

みんなが集まることがなかった。と思ったんです。お互いの家族・親族が同じ場所に集まって、くつろぎながら笑って話して食事をして。そんな時間は本当に貴重で、後にも先にももう作れないと思います。なので、全員が集まって新たな家族が誕生した音の葉は、みんなの『第二の家』ですね。」
新婦「私たちだけじゃなく、両家共通って所が温かくてとてもいいですね。」



想い出の囲炉裏スペースにて結婚式のお話しをしてくださったおふたり

おふたりにとって音の葉とは？

ふたりだけでなく
両家にとっての「家」

全員が集まって新たな家族が成立した
みんなの「第2の家」です



2019年10月 挙式
小松 歩さん・葉さん